

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372201024	
法人名	有限会社敬仁会	
事業所名	グールホーム万富の家	
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町万富1908-1	
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 1 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3372201024-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社プランチピース	
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12	
訪問調査日	令和 5 年 2 月 21 日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出の計画等が思い通りに行われていないが、日々の暮らしの中でもちょっとしたイベントを作り利用者、職員ともに楽しめるようにしています。共同生活、体調管理をしつつも出来る限り自分のペースで過ごして頂ける様に見守り、他愛ない話をしたり、ゲーム、歌唱、出来る家事への参加で、利用者同士や職員とのふれあいを大切にし、心地よくみんなで一緒に暮らせるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

優れている点として上げられるのは、次の2点である。まず、日常の中で利用者が発した言葉や心情を文字に起こし、「気づきシート」としてまとめ、ケアプラン作成時に活用していること。二つ目に、洗濯物を干しながら近隣住民とたわいもない話をしたり、野菜をもらったりするなど、地域に密着した事業所として、地域住民と積極的に交流を図っていること。また、些細なことでも積極的に家族へ連絡するなど、日頃から家族とコミュニケーションを取り、信頼関係を築いていることがある。工夫点としては、食事が楽しく・喜びとなる様、出来る人に手伝ってもらったり、同じ物を食べながら、家庭的で季節が感じられるメニューや行事食を全て手作りしていることがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、ホールに掲示し、日々の申し送り時や会議等で話す機会を設け、より理念に沿うように努力している。	事務所及びホールに理念を掲示し、周知すると共に、日々の申し送りなどで理念に沿ったケアが出来ているかどうか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の方とのイベントが行えずにいますが、日々の挨拶は職員、利用者も欠かさず、運営推進会議で施設の情報報告を通しアドバイスを頂いています。またご近所の方から季節の野菜を頂き調理法を教えていただくこともある。	通勤時に挨拶したり、洗濯物を干しながらわたいもない話をしたり、四季を通して野菜をもらったりしている。コロナ禍前は、事業所主催の行事(夏祭りや餅つき等)に家族や地域の人に参加したり、ボランティアによる演奏会や子供会によるクリスマス会などが開催されていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して相談の受付、広報を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日頃の活動状況等、研修、会議等の報告でアドバイスをもらいサービスの向上に役立っている。	2ヶ月に1回、書面会議を開いており、会議資料を地域包括や区長、民生委員に手渡しし、全家族に郵送している。地域包括から研修やイベントの案内を、家族からコロナ対策についてアドバイスを貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター担当者に現場の状況を理解して頂きアドバイス、協力を得ている。また、市の担当者に介護保険や書類に関する事などを相談し、助言を頂いている。	介護保険制度その他のことで分からないことがあれば積極的に市担当者へ電話連絡し、協力関係を築いている。また、メールで研修や集団指導等の案内を受け取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を行い、職員全員で研修し知識を深め、対応方法を考えて自由な生活を支援している。	3ヶ月に1回行う身体拘束委員会の中で研修を行っている。また、言葉の拘束など、その都度、職員間で話し合ったり、互いに声かけしながら、拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で虐待防止を再認識し、身体のおぼえ、傷を発見した時には職員で確認し話し合い原因を突き止めぼうしにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の該当者事例をあげ、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、改定等の際は具体的事例をあげ、解かりやすく説明をしている。また、契約者、利用者の話を聞き、不安が無い様に丁寧にお答えして納得、理解を確認している。解約時にはフォロー体制に注意を払っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族に毎月「万富の家便り」で担当スタッフ直筆の近況をお知らせしている。面会時にも近況報告をし細かい内容も電話連絡を取り、コミュニケーションを図るとともに思いや、意見を頂いている。	ちょっとした事でも家族に連絡し、その都度、意見や要望を聞いている。また、日々接する中で利用者が話した言葉などを書き留め、「気づきシート」を作成し、利用者の心情や思っていることを把握し実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、職員同士のコミュニケーションを図り、仕事を通して意見、提案が出やすい環境作りをしている。	常日頃からコミュニケーションを取っており、その都度、意見や提案を聞いている。職員から出た意見等は、食事メニューや排便コントロール、勤務体制、便座シートの設置などに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別の相談を受け向上心を持てるように心がけている。個々の、家庭状況等についても出来る限りの対応をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修で自主的に資質のこうじょうをもち、職員同士互いに持っている知識、情報を教え合い自己啓発を重点に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換の施設があり連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の生活などの情報を収集し、どのような援助が必要かを確認、検討している。入居後はコミュニケーションを密にして他入居者や職員との信頼関係が持てるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、面接時に家族、本人の不安や、疑問に答え、思いに沿った生活の提供が出来る様に援助方法を提案し話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いと本人の状況等を確認し合い、改善に向けた必要なサービス提供に心掛けている。また、要望に沿っているかの話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを時間をかけて聞き、出来る事、したい事の確認をして実行し喜びを感じられる様にさりげなく援助している。喜怒哀楽を理解、共有を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を家族に報告し本人、職員の思いを伝え協力をお願いしている。行事写真や作品を面会時に見て頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚縁者の方は窓越し、玄関先での面会に来て頂けているが知人、友人の方は遠慮される事が多い。	コロナ禍のため、馴染みの場所への外出は中止している。家族からの電話を取り次いだり、家族から年賀状が届いた時は職員から連絡したりして、関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各々に合わせた生活を尊重しつつ、みんなで楽しく過ごす時間を作っている。気の合う同士で過ごす場面もあり、助け合いもできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供を得て、連携に心掛けている。退所後の関係も大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中や表情や行動を見て本人の意向を探り出し、心身の状況の違い等、その時々を個人を尊重した介護方法を検討し対応している。	利用者の思いや暮らしの希望等は、日常生活を通じて把握している。把握が困難な場合は、家族に聞いたり、利用者の表情や言動、反応から汲み取って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から今までの生活を聞き出すとともに、家族や関係施設、担当ケアマネージャーからも情報を頂き、本人の生活ペースや趣味、嗜好に対応を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、記録等を確認し性格、習慣、心身の状態に合わせストレスや無理のない生活を送れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議でモニタリングを実施し、日々の申し送り等で心身の状態を話し合い、アセスメントの変更作成をしている。本人、家族、職員、主治医とも相談し最善の計画で実施出来る様に努めている。	月1回、計画作成担当者(管理者)がモニタリングを行っている。「気づきシート」は介護計画作成時に活用している。また、日々の申し送りの中で職員と情報交換・共有している。クリニック受診時や主治医が訪問した際のアドバイスは、プランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕の申し送りの時の心身の状態や会話などの情報を共有し介護計画、実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化は看護師に相談し、主治医に連絡し指示、受診、往診、薬受けをしている。その都度、家族へ状態報告をしている。コロナ禍で提供出来るサービスが制限されるが、出来る限り可能な支援を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域交流は困難だが、二か月に一回の運営推進会議で、地区行事や季節行事のアドバイスをもらい楽しみを支援していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望されるかかりつけ医に職員、または家族同伴で受診。かかりつけ医と連携して適切な医療を受けられるようにしている。	事業所の協力医がかかりつけ医であるが、元々のかかりつけ医を継続することも可能である。遠方のかかりつけ医は家族対応としており、その際、メモを書いて渡し、事業所内での様子が分かるようにしている。主治医との連携は看護師が行っており、その都度、相談したり、アドバイスを貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護は密に連携が取れて十分な支援が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との情報交換は出来ている。家族とも連絡を密にし、対応可能な段階での早期退院が出来るよう医師と相談する機会を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、家族、看護職、職員で連携を取り、納得できる介護支援をしている。	入居時、看取りの指針を説明し、同意を得ている。重度化した場合は、主治医が家族等に説明し、意向等を再確認しながら対応している。	看取りの研修に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを掲示して会議や休憩時も職員同士、細かいところ迄話し合っ対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回入居者とともに訓練している。マニュアルだけでなく細かい問題点や、方法などの話し合いや検討をしている。運営推進会議で地区の協力をお願いしている。	年2回、利用者も参加して、避難訓練を行っている。また、水害・火災を想定した訓練も行っており、マニュアルも整備している。災害時、10日以上耐えしのげる様、米や野菜等を確保している。	地域の人への声かけ・参加に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握し言葉かけに心がけている。排泄の確認やトイレ誘導は他の利用者に聞こえないよう配慮している。	窓用カーテンの設置やポータブルトイレの位置、入浴時やトイレ使用時のドアの開閉、さん付呼称など、利用者のプライバシーに配慮すると共に、利用者個々の尊厳を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に合わせた要望を聞き職員と相談して対応している。日常のコミュニケーションから潜在的な思いを推測するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向に合わせ、各自の趣味や生活のペースを見ながらストレス無く過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人と相談し、清潔を心掛け、季節感を考慮して衣類の提供、アドバイスをしている。整容、爪切り、整髪等の声掛け支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜、食材を使い献立を立てている。また、食べたいものを聞き、メニューに取り入れている。野菜のしょうやくなど出来る事を手伝ってもらっている。	誕生日の際、利用者が希望する物を提供したり、一緒に見た広告の美味しそうな物を作ったりして、食事が楽しくなる様に工夫している。また、たけのご飯や桜餅等の季節メニューや節分・正月等の行事食を提供したり、台拭きやお盆拭き、野菜の下準備など、出来る範囲で利用者にも手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量などは経過記録に記入し把握している。体調や嗜好に合わせ、調理法や刻み、粥、ペーストなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じて声掛け、誘導、介助をしている。義歯洗浄も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を付け個人のトイレサイクルを把握して声掛け、誘導をして気持ちよく過ごせる様に心掛けている。	排泄表で個々の排泄パターンを把握し、車椅子の人は声かけ誘導している。それ以外の人はオシメやポータブルトイレ等、その人に合った排泄ケアを行うようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の起床後の水分補給、牛乳、食事、食材の工夫で負担なく水分摂取ができるようにしている。また、体操なども取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回は入浴していただいている。希望を聞き体調に合わせた入浴方法を行っている。必要時には清拭での対応をしている。	週2回以上のシャワー浴を基本としているが、湯船に浸かることも可能である。また、利用者の状態・状況に合わせて、足浴・清拭にも対応している。入浴時、たわいのない会話をしながら、賑やかに楽しく入浴できるように支援している。季節湯(ゆず湯)も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態に応じて休憩をしていただき、夜間良眠のため日中の活動に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで把握できるようにしている。用法、用途の変更の際は主治医、看護師、職員連携支援している。確実に適正な服用を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことを各々の生活の一部に取り入れ活気のある雰囲気づくりをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が限られているが近所の散歩や花見、外気浴の楽しみを支援している。	コロナ禍のため、積極的な外出支援は出来ていないが、事業所の周辺を散歩したり、庭で外気浴をしたりして、気分転換を図っている。まだ、家族との外出・外食は控えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人からの訴えがあれば家族に依頼して購入してもらっている。時世で買い物外出は控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望がある際は電話を使用してもらっている。家族からの電話も受け付けている。家族、知人からの手紙等もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある置物や貼り絵などを利用者と一緒に作っている。トイレ等は温度、灯りなどの配慮をしている。	共有フロアには採光が取れる天窓があり、とても明るく開放的である。また、事務所やキッチンからフロア内が見渡せ、机やソファなどの動線も確保されている。壁面には行事で撮った写真や季節の飾り付けがされ、居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、テーブル、椅子を置き居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしくテーブル、椅子を配置し利便性と、写真や置物を飾り心地よい空間、雰囲気づくりをしている。ベッドの高さ等も各自の意向を聞き、安全で動きやすく調節している。	馴染みの家族写真やテレビ、ラジオなど、個人の意向に合わせて持ち込み可能としている。家具の配置などは、入居時に利用者・家族と相談しており、利用者が自立し安全・安心のもと生活できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手摺、スロープなどを設置している。安全な移動導線等も考慮し、職員同士頻りに情報交換をしている。		